

4.4 研究会・セミナー活動

平成 28 年度に開催された「サイバーサイエンスセンターセミナー」の内容を掲載する。

○第 3 回 サイバーサイエンスセンターセミナー

テーマ：電気通信研究所本館ネットワークについて

日時：平成 28 年 4 月 20 日（水）15：00～17：00

会場：東北大学電気通信研究所本館 1 階 オープンセミナールーム

参加者：30 名

概要：東北大学電気通信研究所(通研)・やわらかい情報システムセンターでは、1 年前に新築された通研本館内のネットワーク・サービスを新規に設計・構築し、現在安定的な運用を継続的にしている。本セミナーでは、通研の新ネットワーク・サービスの詳細や、構築・運用に関する知見・ノウハウ・経験などを紹介し、学内の情報通信基盤の企画・整備・運用・管理に携わる関係者を対象に、部局でのネットワーク構築のための情報提供・知識共有を行った。講演後の質疑応答では、多数の関係者から質問やコメントが相次ぎ、活発な議論が行われた。

○第 4 回 サイバーサイエンスセンターセミナー

テーマ：第 25 回東北 CAE 懇話会「スーパーコンピュータに期待すること」

日時：平成 28 年 5 月 13 日（金）10：30～16：45

会場：東北大学サイバーサイエンスセンター 講義室

参加者：58 名

概要：「コンピュータとネットワークを利用し、技術創生および製品創生に関する技術、知識、経験および製品に関する事業を行うことにより、生産活動に従事する社会人に対する社会教育の推進を図るとともに、IT 時代における知的生産活動の推進を図る」ことを目的として活動をしている CAE 懇話会の東北支部組織（東北 CAE 懇話会）との共催により以下の講演を行い、大学のスーパーコンピュータ利用に関しての要望、製品開発における CAE が抱える課題等についての議論・意見交換が行われた。

基調講演「東北大学大規模科学計算システムとその利用支援について」

小林 広明 教授（東北大学サイバーサイエンスセンター）

講演「ユーザと共に成長する並列有限要素法ソフト「FrontISTR」

橋本 学 助教（東京大学大学院新領域創成科学研究科助教）

「車載製品開発における照光解析の活用」

伊藤 徹 氏（アルプス電気株式会社）

「宮城県産業技術総合センターの企業支援の取組み」

久田 哲弥 氏（宮城県産業技術総合センター）

「HPC とクラウド可視化」

小山田 耕二 氏（京都大学学術情報メディアセンター教授）

「産業用ゴムベルト構造解析へのスパコン・オープンソース CAE 適用の試み」

徳田 明彦 氏（三ツ星ベルト株式会社）

○第5回 サイバーサイエンスセンターセミナー

テーマ：第2回 初等・中等教育機関の学校無線 LAN セキュア化及び eduroam 参加についての情報交換会

日時：平成29年3月10日（金）13：45～15：15

会場：東北大学東京分室 会議室A

参加者：11名

概要：初等・中等教育機関（学校基本法の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）における学校無線 LAN システムについて、現在の課題を明らかにするとともに、セキュア化（安全対策、802.1X対応）を推進するため、適切なシステム設計・構築のための情報提供・交換及び議論を行った。

また、これからの ICT 活用教育環境をサポートするのにふさわしいネットワーク基盤を構築するため、国内外の先進事例を紹介の上で、他校や大学、市街地、外国研修先等でのシームレスな無線 LAN 利用を実現する学術系ローミング基盤「eduroam」への参加を促し、国内における運用基盤立ち上げ及び各校への導入について、情報交換と議論を行った。

○第6回 サイバーサイエンスセンターセミナー

テーマ：第25回 Workshop on Sustained Simulation Performance

日時：平成29年3月13日（月）10：30～17：05

平成29年3月14日（火）10：15～17：20

会場：東北大学サイバーサイエンスセンター 講義室

参加者：152名（うち外国人26名）

概要：海洋研究開発機構、ドイツ シュトゥットガルト大学高性能計算センター及び NEC との共催により、国際的に活躍している計算科学の研究者及びスーパーコンピュータ設計者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換及び今後のスーパーコンピュータの研究開発のあり方について議論を行った。

はじめに、文部科学省研究振興局計算科学技術推進室工藤室長から、HPCI と呼ばれる我が国の高性能計算基盤の整備・運用状況と京コンピュータの次のシステムの研究開発事業「FLAGSHIP2020 Project」の進捗状況についての報告があった。その後、日本、ドイツ、ロシア、米国の研究者から、HPC 技術動向、HPC システム評価、アプリケーション開発の幅広い分野のトピックについて、21件の最新の研究成果が発表された。